

2020福井大学東京サテライト ラウンドテーブル

主催 福井大学連合教職大学院 東京サテライト

日時

2020年

11月21日 土 10:00-15:30

ZOOMミーティングで開催

ICTで探究と協働はどう育まれるのか？

これからの学習について、従来の「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」の視点も重視され、例えば新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が提示されました。予測困難の時代に「他者と協働しながら目的に応じた納得解」を見出すことが求められています。

そのツールとしてのICT技術の教室への導入は、コロナ禍で促進されました。しかし、教員のICT技術への熟達は、OECD調査の中で日本が低い位置にいるというデータもあります。この状況下で昨今の教育のキーワードになっている「探究」「協働」を教室の中でどのように成立させるのか。そして学びをICTを通してどのように考えることができるのか。

お互いに直面している悩みを打ち明けあいながら、大切にしたいこと、しなければならないこと、できること、できないことは何かを見据えていく協議を進めたいと考えます。

シンポジウム

第1部



松木 健一

(福井大学大学院理事・副学長)

国立大学法人福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科長を経て現職。



宮下 哲

(信州大学教育学部附属松本中学校副校長)

福井大学教職大学院准教授、長野県教育委員会事務局北信教育事務所主任指導主事を経て現職。

ラウンドテーブル

第2部

「ラウンドテーブル」は、4～5人ずつの小グループでテーブルを囲みながら、自分の実践を持ち寄り傾聴し、語り合う場です。参加者が自身の活動を省察すると同時に他者の実践を丁寧に聞き取るという交流の中で、これまでの固定観念や役割・常識から離れて新たな可能性を探っていく営みです。校種や職種、立場の違いを超え、気づきや学びを互いに提供する対話によって、認識を深めていくことを目的とし、シンポジウムを基調にこれからの教育を考える着眼点となりそうなテーマを4つ設定しました。そうした学び合いを通して明日へのヒントを見いだしていきたいと考えます。

参加申し込み

〆切 11月18日(水)



※分科会を選び、必要事項を入力してください。
※第1部のみ、第2部のみ参加も可能です。

PC・スマホから右の

申込フォームでお願いします。 <https://forms.gle/gidu9Y39nK2Srfv9>

お問い合わせ

dpdt.fktk@gmail.com

タイムテーブル

9:00～ 接続開始

第1部

10:00 オープニング・事務連絡
全体交流

10:30～12:00 シンポジウム「ICTで探究と協働はどう育まれるのか？」
松木健一(福井大学大学院理事・副学長)・宮下哲(信州大学教育学部附属松本中学校副校長)

12:00～13:15 昼食・休憩

第2部

13:15 諸連絡

13:30～14:45 ラウンドテーブル「個々の実践報告を傾聴し、深め合う」
参加申し込みの時に以下のA・B・C・Dいずれかを選んでいただきます。
各分科会にわかれて、テーマについての思考を深める場です。

15:00 全体共有

15:30 終了

A

「教育のICT化による課題とうまく付き合う」

GIGAスクール構想により、小・中学生は今後1人1台のパソコン配置が実現されます。ICTは情報収集、データ分析、遠隔地とのコミュニケーションにおいて優れています。しかし学校内での環境が整っていくと、教員にも子どもたちにも、苦手意識や力量不足、正しい情報知識の後追いによって別の問題も生じるでしょう。

この分科会では、今の時代に必要不可欠となったICT活用とどのようにうまく付き合い、未来に向かっていくのかを探っていきたいと思います。

B

「学校組織が乗り越えるべきことを考える」

チーム学校としてICT技術の導入や普及を進めるなかで、さまざまな組織的課題に直面している学校も少なくないでしょう。それらの課題を乗り越えるために、そして、ICT技術が特別なものではなく日常のものとして学校内に広がるために、私たちにはどのような取り組みができるのでしょうか。

この分科会では、参加したみなさんの学校がもつ組織的課題や実践例を共有して議論しながら、ICT技術をそれぞれの学校の日常に根付かせるためにできる取り組みの可能性を探りたいと考えます。

C

「ICTの長所・短所を理解し、使いこなす」

ICT化によって、教育効果や効率が上がる部分、逆に費用対効果が見込めない(従来の方法が適している)のはどの部分でしょうか。当然のことながら、万能のツールは存在しません。優れたツールを使いこなしていくカギは、その長所に合った場面で活用し、有効でない場合には他の方法を選択する「分別」にあります。

この分科会では、ICTがどんな学びを得意とし、逆に苦手とするのはどんなことなのかを皆さんと議論し、整理することで、明日からの教育実践のヒントを得ていくことを目指しています。

D

「デジタルネイティブの内面を探る」

「ネオ・デジタルネイティブ」とも呼ばれる現在の幼児・児童・生徒は、ICTとの共生が自然に成立しています。そうではない教員との「ずれ」はどのように存在するのでしょうか。また、その環境下で子どもたちの生活・行動・思考はどのようにあるのでしょうか。喜怒哀楽は共有されるのでしょうか。子どもたちの感覚や認識を理解しようとする中で、教育は成り立つのではないかと考えます。

この分科会では、私たち大人も自身の省察を行いながら、子どもの学びを深めるための糸口を探りたいと考えます。